

人権協シンボルマーク



いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。

ふれあい

美浜町人権尊重啓発協議会会報

第65号

発行：平成30年7月23日
(年3回発行)

編集：人権協広報部会

連絡先：美浜町生涯学習課

TEL 32-1212

FAX 32-1222

E-mail: jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

～心を柔らかくストレッチ～

第1回町民人権講座 (5/24)

佐久間^{さくま}レイさん

5月24日(木)に、生涯学習センターなびあすで第1回人権講座を開催しました。

講師は、テレビアニメ「それいけ!アンパンマン」のバタコさんや、「魔女の宅急便」の黒猫ジジの声等でおなじみの声優・佐久間レイさんでした。声優としてだけではなく、歌手や脚本家としても活躍されている佐久間さんは、シングルマザーとして娘を育ててきた経験や、演じてきたキャラクターから学んだ

こと、アンパンマンの作者・やなせたかしさんとの

交流等を交えながら、心に振れ幅をもた

せることが大切と語られました。折れず

に生きていくためには、自分の嫌なところやネガティブな感情を否定し抑え込むのではなく、それを認めること(心を柔軟にし、振れ幅をもたせること=心のストレッチ)が大切とのことでした。

また、講演では、佐久間さんによる脚本の朗読劇も上演。家族を交通事故で失い人生に意味を見いだせなくなった女性が、旅の途中で出会った老女との会話を通して自分の人生を肯定していく内容で、一人二役を演じる佐久間さんの熱演に、観客は聞き入っていました。



「全員違うが、全員同じ命。人権を考える上で、このことが大切ではないでしょうか」と語る佐久間さん。終始、笑顔で優しく話される姿に、心が温かくストレッチされるような時間でした。



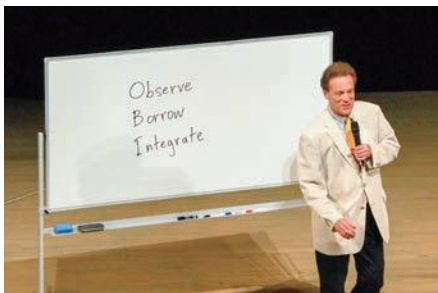
人は人それぞれの考え方、見方があり、生き方がある。それは人それぞれの人生である。自分が思うがままに感じ、生きていく事が大切でこう生きなければというものではないという事を知らされた、考えさせられ、元気になったいい講演であった。

自分の1滴の水が子どもから孫へと流れてゆく。忙しい毎日の中でも自分の心のやわらかさ、愛情が伝わるんだとしみじみ感じました。真っ白な乳児に色を付ける私達の世界。生き方、生きる色をいっぱい伝えたいと思います。本当に素晴らしいお話、心にしみました。本当に、本当にありがとうございました。

とても良い講演でした。他人を変えるのはむずかしいけど、自分が変わることで相手の気持ちも変えられるのかなと思いました。今日からまず、自分を変えていこうと思います。

あってはならない違い なくてはならない個性 ～次世代につなぐ人権のバトン～

第2回町民人権講座 (6/29)
ジェフ・バーグランドさん



第2回町民人権講座は、京都外国語大学教授のジェフ・バーグランドさんの講演でした。

アメリカ合衆国南ダコタ州に生まれ、同志社大学に留学のため20歳で来日。49年経った現在では、築160年の京都の町屋で暮らし、尺八や囲碁を趣味とし、日本人以上に日本文化を愛してやまないバーグランドさんですが、来日したての頃は、招かれた家に靴のまま上がってしまったり、すすめられたスリッパで廊下は歩けるのに、畳の部屋では脱がないといけないなど、初めて触れる日本の文化に驚きと戸惑いの連続だったそうです。

そんな中でも、異文化を否定的に捉えるのではなく、自分が感じた違和感を興味に替えていき楽しみながら日本を知ろうと日々を過ごされたそうです。

講演中、バーグランドさんからの質問に来場者が答える場面でも、行動や好みのパターンが様々に分かれることが見て取れ、会場に賑やかな笑い声が何度も上がりました。

また、アメリカは言いたいことをズバツと伝える「発信者責任文化」で、相手の気持ちを察する受け身が得意な日本は「受信者責任文化」という耳慣れない言葉が印象的で、こういった国民性や性別・年齢・地域など様々な違い(異文化)を受け入れてコミュニケーションを取っていくことが大切だと話されました。

自分が生まれてから持ってきた常識や価値観だけが正しいのではなく、相手の持つ常識もまた正解の一つであると認め、そこから何かを学ぶチャンスにしよう。それが個性の活かされるいい町へと、そして次世代へと繋がっていくと結ばれ、あつという間の1時間半でした。

バーグランドさんの流暢な京都弁に包まれた愛と笑いの溢れる講演会で、会場を後にされる皆さんの胸に灯りがともっているように感じました。

自分と常識が違う人と関わり、違和感を覚えた時に、それを楽しみ、学ぶことが大切だというのは新しい視点だなと思いました。これからの人から謙虚に学ぶ姿勢を持ちたいと思いました。人権とは人から学ぶこと。たくさんの人と出会い、交流することで、自分とは違う価値観の人から学んでいきたいです。

今まで人権問題と向き合うたびに、どう考えていくべきか戸惑うばかりでしたが、今日、初めて明確なヒントを頂きました。中学生の息子や家族で是非話し合いたいと思います。

異文化の方や常識&価値観が違う人から学ぶことの大切さを面白おかしく教えて下さりありがとうございました。分かっているも気づいていない事がたくさんあった自分に気がつきよかったです。

1時間半があつという間でした。楽しいお話の中にも「人権」に関する大切なことを学ばせていただきました。「違いを楽しむ」ということが心に残りました。自分の常識や価値観だけが正しいと思わず、自分も正解、相手も正解と思いたいし、違和感を喜んで勉強の材料にしていきたいです。

自分の常識を人に求めてはだめだということ、自分の価値観を人に求めないことを今更ながら教えられました。自分と違う常識、価値観に出会ったときに「おもしろい」と思える感覚を大切にしていきたいと思いました。

2018年 今後の町民人権講座

●会場はいずれも なびあす

	日時	演題	講師等	スタイル	テーマ
第3回	7月28日(土) ①14:00～ ②19:00～	映画『湯を沸かすほどの熱い愛』 主演:宮沢りえ (日本アカデミー最優秀主演女優賞)	 日本アカデミー賞6部門 (作品・監督・脚本・主演女優・助演女優・新人俳優)受賞の感動作!	映画上映	家族・命
第4回	9月15日(土) 19:30～	(仮)「認知症への正しい理解と効果的な予防」	 浦上 克哉 さん (鳥取大学医学部教授) 認知症研究の第1人者	講演	高齢者認知症
第5回	10月18日(木) 19:30～	「やってみなきゃわかんないっしょ!!」	 小林 さやか さん 映画・小説『ピリギャル』 実在モデル	講演	子ども夢
第6回	11月14日(水) 19:00～	「『寝た子』はネットで起こされる!？」 ～部落差別は、今～	 川口 泰司 さん (山口県人権啓発センター事務局長)	講演	部落問題

「人権のまち・美浜とめざして」

人権協・部会紹介(全7部会)

会 長 竹仲 敏春
副会長 梅津 隆久・河合 政志・竹本 三代一

人権擁護・啓発部会

部会長 中谷 敏治

木野 隆 藤田 俊一 知場 富雄 加茂 ひろ子
上田 秀夫 武長 詩子 瀬戸 弘勇 岸本 嘉宏
馬野 さおり 石橋 勇人 伊藤 弘昭 瀬戸 慎一
武田 晋

夏フェス(花火大会)や人権週間中に啓発活動を行います。
推進委員相互の交流や研修を行います。

広報部会

部会長 西野 泰弘

真田 邦彦 宇都宮 貴 山野 泰孝 一瀬 繁紘
萩原 敦子 出口 稔久 浜野 有美 竹内 正雄

年3回広報「ふれあい」を発行し、人権に関する情報や人権協
などの活動に関する情報を提供します。

啓発資料・人権協コーナー部会

部会長 高橋 一男

森井 みどり 福嶋 智恵美 戸羽 豊 池田 直美
塩濱 功平 加藤 睦教 高木 雄大 原田 映里
中川 貴寛 四ッ谷 美樹

身近に人権について考えていただけるような啓発資料「ふれあい」
を発行します。人権週間中に、人権協コーナーを開設します。

作品公募・意識調査部会

部会長 森本 哲

山口 有一 宇都宮 亮 三好 万里子 河本 猛
渡辺 直史 兵田 菜 志賀 大輔 今安 沙都子
川畑 貴寛 高木 隼

人権作品(短い手紙・絵・ポスター)の公募を行い、入賞作品
は人権作品集「ふれあい」として発行します。意識調査につい
て検討していきます。

町民人権講座部会

部会長 高木 賢治

堀川 ふじ子 四ッ橋 政和 川尻 宏和 武藤 涼子
伊藤 善幸 浜野 裕介 山口 徹 鳥羽 宏昇
山口 和哉 池田 達弥 竹内 洋子

年間6回の講座を開設し、広く町民に人権に関わる学習機会を
提供します。(1・2Pをご覧ください)

推進団体学習部会

部会長 大塩 友之

兵庫 賢一 寺田 真一 上原 浩 松田 うめ子
荒木 祐作 田邊 雄 南 宥希 三田 紘司
浅妻 真記

集落・企業・団体等の自主的な学習機会の開催を支援します。

人権のつどい部会

部会長 木子 雅之

加藤 美千代 中嶋 さき子 河合 美恵子 玉井 なおみ
本間 博美 武長 加奈 野原 佐智夫 西野 文隆
山口 靖代 浜野 明美

人権週間の意義を踏まえ、12/8(土)に「人権のつどい2018」
を開催します。辻井ゆき子さん講演会・yokkoさんコンサート

人権コラム

前回64号の人権コラムをご覧になりましたでしょうか。今年の秋に福井しあわせ元気国体と障害者スポーツ大会が開催されることを紹介させていただきました。

この全国から障がい者を含め多くの人々が集う福井しあわせ元気国体・しあわせ元気大会を障がいのある人への差別や偏見をなくし、障がいの有無にかかわらず、すべての人がスポーツの素晴らしさや可能性を共有し、県民の障がいについての理解を促進させる機運を醸成させる好機ととらえ、本年4月1日に「障害のある人もない人も幸せに暮らせる福井県共生社会条例」(以下「福井県共生社会条例」という。)が施行されました。福井県共生社会条例は、障がい者の自立および社会参加の支援等ならびに障がい者に対する障がいを理由とする差別の解消の推進に必要な施策に関し、基本理念を定め、県の責務ならびに市町および県民等の役割を明らかにし、すべての県民が、障がいの有無によつて分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら幸せに暮らせる共生社会の実現に寄与することを目的として制定・施行されました。

また、平成28年4月1日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が施行され、今年には福井県共生社会条例が施行されるなど法律・条例整備が進んでまいりましたが、障がい及び障がい者についての理解は深まってきているでしょうか。

福井しあわせ元気国体・しあわせ元気大会までまだ少し時間がありますので、障がい及び障がい者について理解を深めながら、来場する選手や観客の皆さんをお迎えする準備を進めていきましょう。



「ふれあい」第64号をお読みになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので紹介します。

- ◆今年度(H29)も無事に活動をしていただき、大変お疲れ様でした。人権コラムにもありましたとおり、今年は50年ぶりに福井で国体が開催されます。障がいの有無にかかわらず、スポーツを楽しみ、応援する大会にわたし達自身もしていきたいと思いを新たにいたしました。新年度もお世話になりますが、引き続き魅力ある「ふれあい」誌の発行となりますようご活躍を祈念しております。(Sさん)
- ◆腰塚さんの講演内容を読んで、努力すれば不可能も可能にすることができるんだな—と思いました。何事も自分で限界を決めちゃいけないんだと改めて勉強になりました。(Tさん)
- ◆12月9日に生涯学習センターなびあすで開催された「人権のつどい2017」に参加させていただきました。人権問題を取り上げるときに、まず「戦争」ということを考えなくてはいけないことが印象に残りました。軽快なお話を聞かせていただきました。青島さんのすばらしいピアノ伴奏、小野さんの優しく澄み切った歌声で、人権というテーマをわかりやすく、身近なものとして、わたし達に語りかけて下さり、非常に良いお話だったと思います。人権協のさらなる発展を大いに期待しています。(Yさん)
- ◆人権について、さまざまな活動を行っているのだと知り、興味がわきました。クロスワードをするため手に取ったのですが、全部読んでしまうぐらい、ためになるものでした。(Hさん)
- ◆講座の内容をまとめて下さっているので、参加できない回の内容を知ることができて、とても嬉しいです。(Tさん)

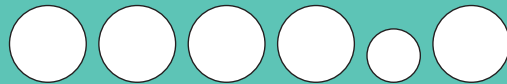
1	5	8		12		17
	6			13	15	
2			11			
		9				
3	7				16	
4				14		
		10				

■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかをお願いします)

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷土29-3 生涯学習センターなびあす内 人権協事務局
※ FAX (0770-32-1222) E-mail (jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)
- 〆切は、平成30年9月30日(日)です。
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「ハイリヨ」でした。
たくさんのご応募、ありがとうございました。今回の当選者は
津原 露美さん 合原 大世さん 松崎 大和さん
石崎 澄さん 志賀 朋美さん
以上の皆さんです。おめでとうございます！

人権クロスワードパズル

黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



ヨコのカギ

1. 谷崎潤一郎の長編小説。『細雪』と書く。
2. 野球で、各イニングにおける後攻側の攻撃のこと。
3. 数字を順に加えて計算すること。
4. 手で持つのに適した大きさのこと。
6. 7月から8月にかけて花を咲かす水生植物。
10. 芥川龍之介の短編小説。地獄に落ちた「カンダタ」が主人公。
11. 樹木、草花などの緑で覆われた土地のこと。
鶴見○○○○や金ヶ崎○○○○など。
13. 歴史上の事実のこと。
14. 「または」または「あるいは」
16. 物事が起きた時や状況のこと。

タテのカギ

2. ゲーテの小説『若き○○○○の悩み』
5. 世界最大の砂漠。
7. 黒色と白色の石を使って行う陣取りゲーム。
8. 手術などで使用する小さな刃物。
9. いなりずしと巻きずしの入った寿司のこと。
12. 朝、起きること。
14. 木を切るのに使用する道具。
15. 回転するものの中心のこと。
16. 主に貨物を運搬する、箱形の屋根付き自動車。
17. 夏目漱石の小説。新任教師が主人公。

編集後記

平成30年度の人権協の事業がスタートしました。7つの部会が、今年の方角性と着地点を定め、歩み始めました。広報部会も町民の皆さんに、「手にとってもらえる」「見てもらえる」「読んでもらえる」「答えてもらえる」そんな広報づくりに取り組んで参ります。

お気づきになりましたか？ 広報ふれあいがカラー刷りになったことに！ 周りがカラー化していく中、中身を工夫し、レイアウトを工夫しながら皆さんに人権協からのメッセージを送り続けてきました。今回のカラー化により、プラス効果でさらに読者が増えることを期待しています。

職場の中庭に一本のびわの木があります。一昨年

の降雪で太い枝にひびが入り、しなだれて、もう枯れてしまうかなと思っていたら、昨年枝をたれたまま青々と葉を茂らせ、実をたくさんつけました。今年も元気に新芽を吹き出し葉の色が濃くなってきました。驚いたのは昨年よりも枝を高く持ち上げているその姿です。柔らかさは強さにつながるという佐久間レイさんのお話がありました。一度はしなだれてもまた頭を高く持ち上げる力強い姿に感動すら覚えました。

人権はまったく難しいことではありません。人権講座での竹仲会長さんのごあいさつのとおり、キーワードは「やさしさ」と「思いやり」。そして、「やわらかい心」でしょうか。(西)